



ニュースレター

2023年8月31日発行

今号のトピックス

◆リレー執筆第2弾(4) “これからの看護理工学”

看護理工学会 理事 松井 優子 (公立小松大学 保健医療学部 教授)

◆第11回看護理工学会学術集会 開催報告

◆学術集会 ハイライト



学術集会1日目のポスターセッション会場の様子

◆10周年記念シンポジウム

「次の看護理工学会の10年に向けて」に参加して

野口 博史 (大阪公立大学大学院 工学研究科 教授)

◆参加レポート

- ① 加藤 広隆 (東京電機大学大学院 工学研究科 修士課程1年)
- ② 奥野 匠 (大阪公立大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年)
- ③ 坂本 彩恵 (大阪医科薬科大学病院 看護部)



◆学会参加報告：ロボティクス・メカトロニクス講演会2023

熊添 直樹 (大阪公立大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年)

◆第12回看護理工学会学術集会のご案内

第12回大会長 峰松 健夫 (石川県立看護大学 教授)



リレー執筆第2弾(4) “これからの看護理工学”

看護理工学会 理事 松井 優子 (公立小松大学 保健医療学部 教授)

ニュースレターNo.8に、平井慎一先生が書かれた「ことわりを追求する理学と、実問題を解決する工学では、課題に対するスタンスが異なります。また、基礎理論を重視する数物系と実際の対象からスタートする生物系では、アプローチや考え方が違ってきます。」という文章がありました。これを読んだとき、私がこれまで漠然と捉えていたことをすっきりと明文化してくださったという思いがしました。

看護学の研究には、課題に対するスタンスが混在しています。たとえば、組織学研究のような看護ケアの原理(ことわり)を追求する研究は、理学的な思考の研究です。新たなケア技術や機器の開発、看護ケアの効果を測定するための機器の開発などは、工学的な思考の研究です。看護技術の効果の検証ツールとしての尺度開発や、生体现象を測定する尺度開発などは、数物系の思考といえますし、それらを事実から帰納的に抽出しようとする研究は生物学的な思考の研究といえます。さらに、事象の実態や構造を捉えようとする研究は心理社会学の思考から成る研究です。これらを鑑みると、看護学研究は、理学、工学、数物系、生物系、心理・社会学系などの考えが混在している多彩な分野といえます。

ニュースレターNo.10で赤瀬智子先生は、看護理工学を学問融合の場と位置づけて多職種連携の重要性を述べています。他の学問分野の研究者と交流するにあたり、お互いを理解することが重要ですが、そう簡単に理解し合えないのが現状です。相互理解のためには、相手を理解すると同時に、自身の研究分野の特徴を説明できることも大切であり、それがなかなか難しいと感じます。

看護学研究が多彩であるからこそ、他の学問分野の方々はさまざまな印象をお持ちになっていると思います。他の学問分野との協働において自身の学問分野や研究を説明するための共通言語として、課題に対するスタンスやアプローチの特徴で看護学を捉えることにより、他分野との相互理解が促進されるのではないかと思います。



第11回学術集会の教育講演にて

第11回看護理工学会学術集会 開催報告

◆学術集会ハイライト Vol.1

プレングレス：2023年6月9日

『わくわく体験ツアー』として、国産初の手術支援ロボットと神戸大学医学部附属病院の病棟見学会が行われました。



手術支援ロボットhinotoriとカメラを向ける参加者



操作体験



病院職員とのディスカッション

第11回看護理工学会学術集会 開催報告

◆学術集会ハイライト Vol.2

1日目：2023年6月10日

神戸大学六甲台キャンパスの百年記念館にて開催されました



会場入口案内板



神戸港が眼下に広がる百年記念館エントランス



大会長講演「ひらめきと独創」



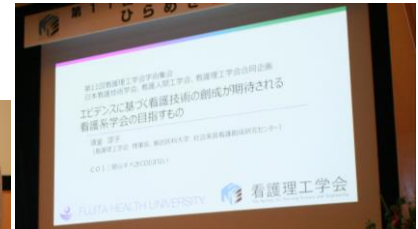
特別講演1「神戸の未来を拓くロボット医療研究開発」



大会長の
齋藤いずみ先生



医療情報学会とのジョイントセッション



看護人間工学会・日本看護技術学会とのジョイントセッション



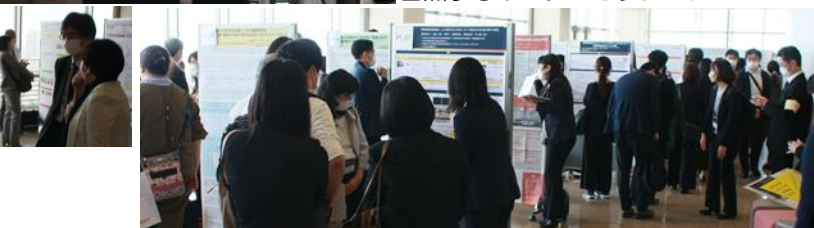
ハンズオンセミナー：看護者向けエコー実践



白熱するポスターセッション



教育講演：看護実践の向上につながる組織学研究の実際



おもてなし企画
「そして神戸、バイオリンで奏でるファンタジア」

第11回看護理工学会学術集会 開催報告

◆学術集会ハイライト Vol.3

2日目：2023年6月11日



演者
生田幸士先生



特別講演2「自由な発想が世界初を生む」



座長の真田弘美先生



会場エントランス



2日目も白熱するポスターセッション



企業展示会場



優秀発表演題賞の選出



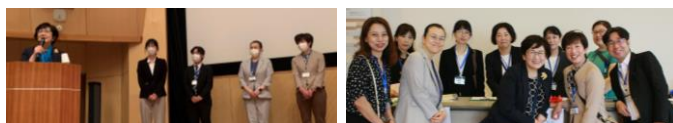
学会賞・学会奨励賞の授賞式



第12回学術集会大会長の峰松先生のご挨拶



特別講演3「タイムスタディで看護を見る化する」



学術集会事務局・実行委員の皆様、ありがとうございました



お天気にも恵まれ盛況のうちに終了しました

◆10周年記念シンポジウム

「次の看護理工学会の10年に向けて」に参加して

野口 博史（大阪公立大学大学院 工学研究科 教授）

2023年6月11日に第11回看護理工学会学術集会において、第1会場である六甲ホールで「次の看護理工学会の10年に向けて」シンポジウムが開催されました。第10回学術集会で企画された10周年記念シンポジウム「看護理工学会 これまでとこれから」が主に、これまでの各委員会などにおける活動の報告など、これまでの10年間の学会のまとめだったものを受けて、次の10周年に向けての活動に向けたシンポジウムでした。このシンポジウムでは、これまで理事長が兼務されていた将来構想委員会を野口が任されたこととも関連し、その委員会活動を報告するとともにこのシンポジウムについても任されることになり、お話をさせていただきました。

シンポジウムでは、将来構想委員会で構想したアクションプランや、そして、会員増などに向けて、実際に行動する柱として3つの項目を挙げて、シンポジウム内ではそれらについて説明させていただきました。まず、1つめの「看護研究者と工学研究者や企業の交流機能の強化」では、最近の関連学会との取り組みなどの現状紹介を行うとともに、神戸大学の齋藤先生より学術委員会でこれまでの取り組みと今後に向けた研究協力の推進についてのお話をいただきました。また、東京電機大学の桑名先生からは、次世代委員会でのワークショップなど現在の取り組みや今後の進め方についてご紹介いただきました。

次の柱として「会員向け情報サービスの強化」があり、会員向けのページ拡充や情報発信、また、メーリングリストなどでの情報発信の強化などについてのお話を野口よりさせていただきました。続けて、もう一つの柱として「WebサイトSNSでの情報発信」として、学会Webサイトの充実や、Twitterなど学生や若手研究者が主に利用するSNSへのアプローチなどについても話をさせていただきました。

最後にパネルとして、これまでの演者の先生に加えて、将来構想委員会の副委員長である東京大学の仲上先生も加えてパネル討論を行い、学会自体についてのいろいろな有意義な議論を行うことができました。学会自体は、10年という節目を超えたところですが、今後も重要な領域となることが見えている分野であり、学会自体の強化、そして、それらを通じて看護理工学の発信強化の重要性を再認識したところで、有意義なシンポジウムになったと考えております。



（左から）仲上先生、野口先生、桑名先生、齋藤先生



◆看護理工学会学術集会 参加レポート

◆加藤 広隆（東京電機大学大学院 工学研究科 修士課程1年）

私は今回が初めての学会発表のため上手く研究内容を伝えられるか不安でした。しかし、発表形式がポスター発表だったこともあり、多くの方と深い議論を行うことができました。

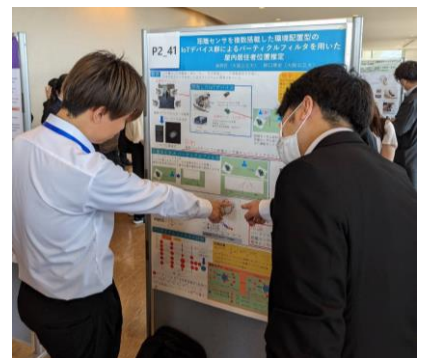
特に看護師、看護学生などの臨床経験のある方、普段話す機会のない年代の方々と交流ができたことは貴重な経験となりました。現場で必要とされている技術や実際に使うことを想定した際の改良点など私たちにはない視点からの意見を頂き、研究の視野を広げることができました。これは、看護と理工学の専門家が集まる場だからこそできたのだと思います。また来年も研究成果を発表できるように、より一層気を引き締めて研究に取り組んでいきたいと思っています。



◆奥野 匠（大阪公立大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年）

私は対面で修論での研究内容のポスター発表を行いました。私の研究分野とは少し違う分野のため、新鮮な話をたくさん聞くことができ非常に満足できた学会参加でした。ポスター発表は以前参加した学会と同様の形式で、広い会場に多くの方が一斉にポスターを各自の割り当てられた場所に貼り付け、聴衆はその中から興味を持ったところに話を聞きに行くという形式のもので、非常にフランクに話を聞くことができました。私の発表にもたくさんの人が聞きに来ていただき、コアタイム中は息をつく間もなく、たくさんの人と話をすることができました。主に理工系の方は技術の実装やセンサそのものについて興味を持っておられた方が多く、看護系の方は実際にどのように使用ができるか、というところに興味を持っておられる方が多い印象でした。またこの学会ではポスター発表だけでなく、全国から集まった先生方の研究の成果などを聞くことができました。この発表の中で、ある先生が、看護系の人と理工系の方は価値観が違い、意見がぶつかることがよくあったという話をされておられました。これは私のポスター発表でも実際に感じたことでした。そのため異なる分野の人の価値観を合わせ、情報をアップデートするためにもこの学会は非常に重要なものであると考えさせられました。

私は今回二回目の学会参加でしたが、前回とは違い、専門外の人が多かったため、専門外の人に自分の研究を伝えることの難しさを感じました。また自分には無かった視点からの指摘を受けることで貴重な勉強になる機会でした。この学会で学んだことを今後の研究に生かしていきたいと思っています。



◆看護理工学会学術集会 参加レポート

◆坂本 彩恵 (大阪医科薬科大学病院 看護部)

学会に初めて参加して、実習や職場など臨床の場で当たり前だと思っていたことが他の病院では当たり前ではなく、違う方法で行われていることがあり、病院や学校によってかなり違うということを知ることができました。また、自分の発表で意見を聞いたり、他の方の発表を聞いたりして、人それぞれ視点が違ってとても面白かったです。看護師だけでなく、他の職種の方や、様々な経験をされた方など普段の病院で働いているとなかなか会うことのない方と意見を交流することができ、学びが深まりました。そして、自分が気づいていなかった点に気づくことができ、さらなる研究の課題や新しい研究テーマを見つけることができました。今回学んだことをこれからの研究や臨床で活かしたいです。



◆学会参加報告：ロボティクス・メカトロニクス講演会2023

熊添 直樹 (大阪公立大学大学院 工学研究科 博士前期課程1年)

2023年6月28日から7月1日にかけて名古屋で開催されたロボティクス・メカトロニクス講演会2023に参加させていただきました。発表は90分で区切られ、該当セッションの参加者がそれぞれに割り当てられたブースでポスターを貼り出し、興味を持っていただいた方に対してポスターや実際に作成したものを使って説明を行う形式でした。私が想像していた学会の雰囲気とは異なり、自由にブース間を移動でき、興味を持った研究では、その研究者の方に直接わからないことや疑問に思ったことを気軽に投げかけることができました。

ROBOMECHは主にロボットをテーマとした学会で、建設や農業などの産業応用から医療・福祉やバイオといった医療に関するものまで様々な領域に関する論文が投稿されています。私は「看護とメカトロニクス」というセッションで発表させていただきました。最後のセッションではありましたが、幸いにも様々な方に興味を持っていただき、ブースにて説明を行うコアタイムでは多くの方と交流を行うことができました。研究分野の異なる方が来ていただくことも多く、客観的に見た疑問やアドバイスを多くいただき、様々な視点から自分の研究を見つめる良い機会になったと感じています。またコアタイム外では、自分の研究に関連した発表を行っているブースを中心に、興味のあるブースへ足を運びました。研究者の方へ質問をすることで、ポスターや論文だけでは理解できない部分を詳細に理解することができ、自分の研究へ活かせるような技術について学ぶことができました。

私は今回初めて学会に参加したこともあり、不安も多かったです。しかし発表を通して、専門外の方に自分の研究内容を伝える難しさを感じただけでなく、様々な方から今後検討すべきことや自分とは異なる視点からの意見など、多くのお言葉をいただき、非常に多くの学びを得られました。今回の学会で学んだことを今後の研究に活かしていきたいと思えます。



◆第12回看護理工学会学術集会のご案内

第12回大会長 峰松 健夫（石川県立看護大学 教授）

この度、第12回看護理工学会学術集会の大会長を拝命いたしました石川県立看護大学の峰松です。このような身に余る光栄に、身の引き締まる思いで準備を進めております。

本学術集会は、2024年11月2日（土）・3日（日）に石川県立看護大学にて開催されます。副大会長を、看護理工学会の初代理事長でいらっしゃいます真田弘美先生（石川県立看護大学・学長）にお願いしました。皆様にとって有益な2日間となるよう、紺家千津子事務局長（同大学成人看護学・教授）、大貝和裕実行委員長（同大学看護理工学・共同研究講座教授）の下、実行委員一同、精一杯準備に努めております。交通の便が良いとは言えぬ開催地ではございますが、皆様奮ってご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

本学術集会のテーマを『バイオとの出会いで広がる看護理工学の多様性（ダイバーシティ）』といたしました。看護理工学とは多分野連携によってケアイノベーションの創出を目指す学問ですが、学会の歴史的経緯から看工連携が中心となってきました。政府主導でSociety 5.0の実現に向けて世の中が大きく変化している現代において、人工知能などのテクノロジーの重要性が増す中で、看護理工学会が看工連携の先駆者となる責務は小さくありません。しかし、看護理工学が学問として更なる発展を目指すためには、今こそ様々な分野との連携により学問の多様性を拡大していく必要があります。本学術集会では、その中でも特に生物学、分子生物学、生物工学などの『バイオ』に焦点をあてることとし、日本生物工学会や日本薬理学会看護薬理学カンファレンスとの共同セッションを企画いたしました。

会場となります石川県立看護大学は、看護師および看護学研究者・教育者の育成に特化した単科大学です。昨年度より「見る知る、探る」をスローガンとして、探求心豊かな人材の育成に力を入れております。参加者の皆様には、生の教育現場である実習室なども見学していただけるように準備しております。また、本学附属図書館自慢のナイチンゲールコレクションの公開も致します。

本学術集会が、看護学者にとっても理工学者にとっても、看護の礎を改めて振り返り、また様々な学問との出会いによって生まれる新たな看護理工学に思いを巡らす機会となることを心から期待し、皆様とお会いできますことを心から楽しみにしております。

看護理工学会 第12回 看護理工学会学術集会
The 12th Annual Meeting of the Society for Nursing Science and Engineering
バイオとの出会いで広がる 看護理工学の多様性
ダイバーシティ
2024 (令和6年)
会期 11月2日(土)・3日(日)
会場 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市宇留台1-1
大会長 峰松 健夫 (石川県立看護大学 教授)
副大会長 真田 弘美 (石川県立看護大学 学長)
事前参加登録 2024年4月1日(月)～10月11日(金)
演題登録 2024年5月7日(火)～7月8日(月) 優秀演題賞 表彰あり
学術集会ウェブサイト <https://nse2024.net>

広報委員会

委員長：浅野 美礼（信州大学）
委員：大貝 和裕（石川県立看護大学）
内藤 紀代子（びわこ学院大学）
二宮 早苗（大阪医科薬科大学）
岡山 久代（筑波大学）

ニュースレター発行

看護理工学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル（株）春恒社 学会事業務内
TEL：(03) 5291-6231 FAX：(03) 5291-2176
E-mail：nse-society@umin.ac.jp